

平成 30 年度第 2 回地球温暖化対策小委員会等でのご意見の概要と回答

No.	頁	ご意見の概要	回答
1	6	計画策定の趣旨について、適応策に関することが読み取れないので、明記した方がよい。	第 1 章の「2 計画策定の趣旨」に適応策に関する事項を明記しました。
2	7	計画期間が 2030 年までと長いので、途中で見直すことがあるのか明記した方がよい。	第 1 章の「4 計画期間等」に、適宜内容を見直す旨明記しました。
3	20	非エネルギー起源の二酸化炭素排出量について、廃棄物部門の記載がない。産業廃棄物の焼却や一般廃棄物の焼却など内訳を示して欲しい。	第 2 章の「(3) 二酸化炭素の部門別排出量」に廃棄物部門の二酸化炭素排出量を追加しました。
4	23	(図 2-5 について) 二酸化炭素排出量が電力の排出原単位に連動して増減とあるが、2011 年度以降は図からそのことが読み取れない。社会的な要因が影響している可能性など、より正確な表現を検討して欲しい。	説明文について、図中のエネルギー消費量、二酸化炭素排出量の推移に沿った内容に修正しました。
5	25	削減可能量の算出方法などについて、ネックとなる点や優先すべき点を議論するためにも、想定している条件や方法の概略などを示して欲しい。	削減可能量等の想定条件や算出方法の概略等を各委員に説明します。
6	26	削減可能量について、対策の中で全国に比べて増える余地があるものがあれば、そのことを計画本文に注釈的にでもいいので書いたほうが良い。定量的な記述までは難しいと思うが、定性的でも構わないので記載してほしい。	削減可能量の算定に用いた本県の地域特性を反映する指標（産業別の製造品出荷額等や世帯数など）以外の地域の特色（気候、住宅の床面積等）による削減量の定量化は困難ですが、削減量の上積みの余地があるものの例について、記載することとしました。
7	30	第 4 章の緩和策について、優先的な取組など想定しているものがあれば、より分かり易い示し方を検討して欲しい。	第 4 章の「1 基本的な考え方」を「1 基本的な考え方と重点的な取組」とし、重点的な取組を明記することとしました。
8	40	第 5 章の気候の将来予測については、緩和策を最大限実施しても避けられない影響があり、そのために適応策が必要であることを示すために、RCP8.5（追加的な対策を実施しない場合）だけでなく RCP2.6（緩和策を最大限実施した場合）についても記載した方がよい。	将来予測について、気温、降水量といった基本的な事項について RCP2.6、RCP8.5 両シナリオを用いた予測を記載した上で、気候変動影響がイメージしやすいよう RCP8.5 シナリオを用いた猛暑日日数等の予測等を記載することとしました。